

歴史地理文化論分野

キーワード：交流史、景観史、環境史、移民史、都市史、災害対応、歴史遺産、城下町、港町、文化財、差別、共生、移民政策、人種・エスニシティ

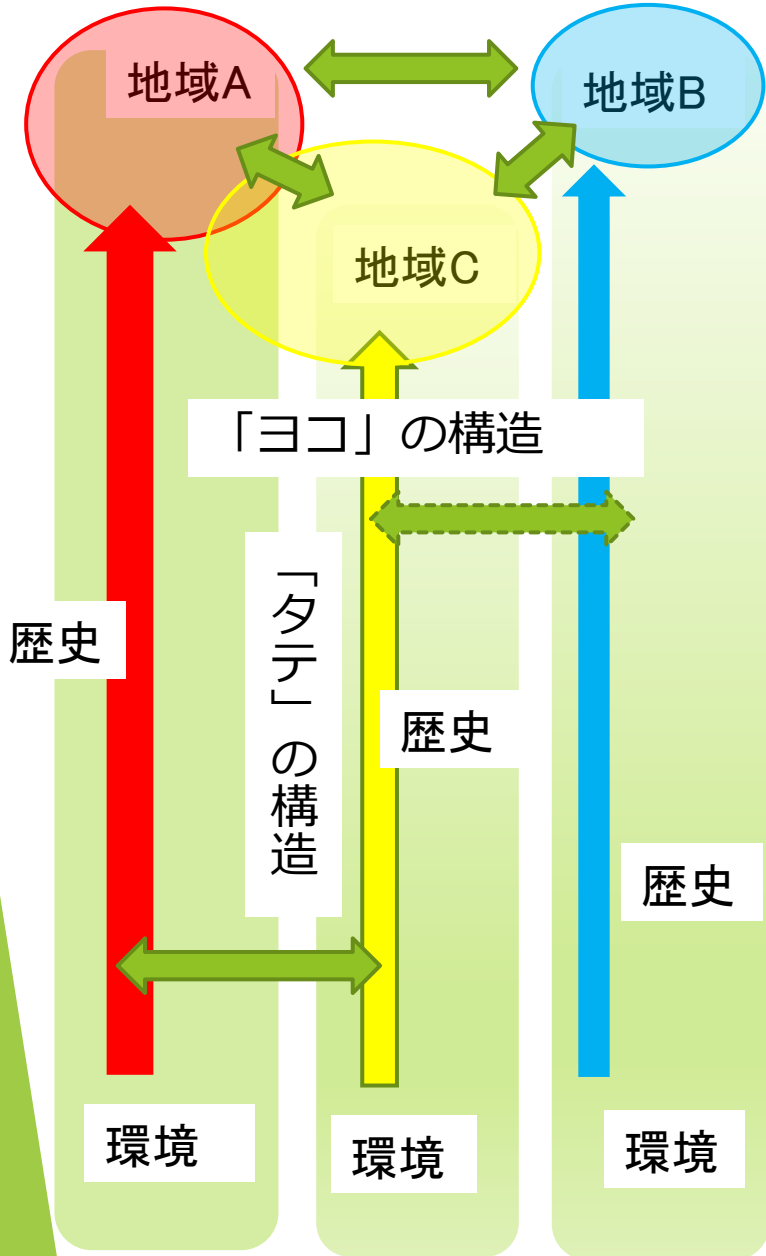


山村亜希 教授（地理学）



徳永悠准教授（歴史学）

現代



研究室の特徴

現代の課題にアプローチするために・・・

→過去から現在に至る地域の歴史（「タテ」の構造）と地域間関係（「ヨコ」の構造）を考察
= 歴史学・地理学の視点・方法の応用

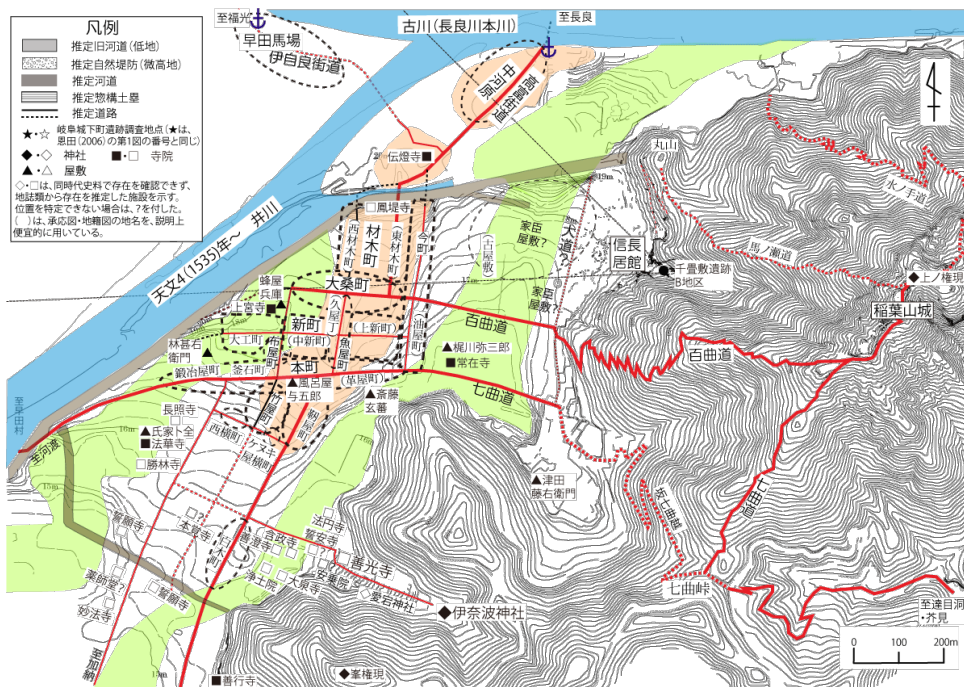
→地域課題の要因、仕組み、解決・対応策、潜在的価値・魅力などの理解・発見へ

【方法】文献、記録、地図、景観、遺跡等の歴史資料の分析、現地のフィールドワーク、読図

教員の研究

山村亜希（歴史地理学） 「歴史都市と地域環境の復原研究」

城下町、港町、門前町、寺内町、鉦山町、宿場町といった、様々な歴史都市を対象としている。研究では、これらの都市空間の意味を、当時の自然・人文環境との関わりの中で考察する。そのために、文献や記録、古地図といった歴史史料の分析と、現地の巡検（フィールドワーク）や読図を通して、復原図を作成する。現代の地域行政や町づくりにおける歴史資源の活用・整備についての調査や指導も、積極的に行っている。



織田信長の岐阜城下町復原図（山村作成）



授業での彦根城下町の現地見学（山村撮影）

教員の研究

徳永悠（歴史学） 「環太平洋地域の移民史研究」

アメリカ合衆国の移民社会を中心に、環太平洋地域の人々の移動をめぐる歴史（移民史）について研究を行っている。ローカルな集団間関係とグローバルな国際関係が交差しながら生み出す人種差別や経済格差だけでなく、移民社会における相互理解の可能性についても分析している。授業では、移民が定住した地域の自然環境にも注目し、地震や洪水などの自然災害と、その予防が人の移動や人種主義と交差していく過程についても、移民史と環境史の観点から考察したい。



ロサンゼルス日系人社会で根付く盆踊り（徳永撮影）



韓国料理とメキシコ料理が融合した料理「プルコギタコス」（徳永撮影）